

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
289	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
<b>題名 (原題/訳)</b>	
<p>Associations between anthropometry, cigarette smoking, alcohol consumption, and non-Hodgkin lymphoma in the Prostate, Lung, Colorectal, and Ovarian Cancer Screening Trial</p> <p>前立腺・肺・大腸直腸・卵巣癌スクリーニング研究における喫煙、飲酒量、身体計測と非ホジキン病との関係について</p>	
<b>執筆者</b>	
Troy JD, Hartge P, Weissfeld JL, Oken MM, Colditz GA, Mechanic LE, Morton LM	
<b>掲載誌 (番号又は発行年月日)</b>	
Am J Epidemiol. 2010 Jun 15;171(12):1270-81. Epub 2010 May 21	
<b>キーワード</b>	
飲酒、喫煙、身体計測、身長、体重、BMI、ライフスタイル、非ホジキンリンパ腫	
<b>要 旨</b>	
<p><b>目的：</b></p> <p>ライフスタイルと非ホジキンリンパ腫に関する前向き研究には論争があり、いくつかは症例対照研究に相反している。非ホジキンリンパ腫とそのサブタイプのリスクと身体的特徴、喫煙、飲酒量との関係性を評価するために、前向きコホート研究で、前立腺・肺・大腸直腸・卵巣癌(PLCO)スクリーニング研究が行われた。</p> <p><b>方法：</b></p> <p>ライフスタイルは 1993-2001 年の PLCO 研究に登録された 55-74 歳の男性と女性の参加者 142,982 名からの質問紙によった。ハザード比と 95%信頼区間はコックス比例ハザード回帰を用いて算出した。</p> <p><b>結果：</b></p> <p>2006年までの1,201,074人年の追跡から、1,264症例が組織学的に非ホジキンリンパ腫と確認された。20歳と50歳とベースライン時にBMIが高いと、非ホジキンリンパ腫のリスクが高かった(全体で<math>p&lt;0.01</math>、BMI18.5-24.9に対して30以上ではハザード比は1.32、95%信頼区間1.13-1.54)。喫煙は全体では関連はなかったが、濾胞性リンパ腫には負の相関があった(吸ったことがないに対して現喫煙はハザード比0.62、95%信頼区間0.45-0.85)。飲酒量は非ホジキンリンパ腫と関連がなかった(<math>p=0.187</math>)。</p> <p><b>結論：</b></p> <p>これらの結果は、BMI が非ホジキンリンパ腫と関連しているという従前の研究報告を支持するものであり、喫煙と濾胞性リンパ腫に負の相関を示す(交絡が残っているかもしれない)ものであるが、飲酒と非ホジキンリンパ腫との因果関係を示唆するものではなかった。</p>	